

歴史に刻まれた群馬と台湾の絆

台湾と群馬の懸け橋となった歴史的人物群馬と台湾は、歴史的に深い結びつきを持っています。明治から昭和にかけて、群馬出身の多くの先人たちが台湾の発展に貢献し、また台湾から群馬へと渡った人々も重要な役割を果たしてきました。



TSMC

台湾のシリコンバレー。
新竹が本拠地、最先端半導体の9割製造し、企業価値は 世界No.5。



新井耕吉郎

沼田市園原出身、台湾で紅茶栽培推進、台湾紅茶の父と呼ばれる。



金子昌太郎

前橋出身、砂糖キビの品種改良、台湾製糖業に貢献。



羽鳥又男

前橋富士見村出身、日本統治時代台南最後の市長、史跡保護に貢献。



石坂荘作

東吾妻町出身、基隆に図書館、夜間学校を建て基隆聖人と呼ばれる。



羽鳥重郎

前橋富士見村出身医師、風土病撲滅に貢献、晩年は花蓮で地域医療に従事。



周再賜

屏東出身キリスト教教育者、同志社大学助教授の後前橋共愛学園で40年間校長を務める。



中島長吉

松井田町出身、教育者、六氏先生の一人、台北で遭難殉職。



【創業地：花蓮】 おかげさまで創業110余年



Green engineering

株式会社 しみづ農園

(一財)台湾協会 (一社)台湾世界遺産登録応援会 東京台湾の会 東台湾同郷会

群馬県台湾総会

ホームページ



台湾マップ制作：飯塚裕子
提供：群馬県台湾総会

蕭菊貞 作品

A Film by HSIAO CHU-CHEN

ドキュメンタリー映画 A Chip Odyssey

『チップ・オデッセイ 台湾の賭け』

2025年/台湾/1時間46分/監督：シャオ・ジュイジェン (Hsiao, Chu-Chen)

2026年9月23日(水・祝) 13:30開演 自由席

講演会+映画上映会 13:30 講演会 14:30映画上映

高崎芸術劇場スタジオシアター

—— 小さな島・台湾が、なぜ世界の未来を握ったのか ——
台湾半導体産業 未来を信じ続けた人々の挑戦

造山者

世紀的賭注

A CHIP ODYSSEY

導演 蕭菊貞 | 製作人 陳添順 蔣顯斌 | 監製 史歌泰 | 研究顧問 王仕琦 | 企画監理 劉頤 | CNEX 製作管理 蔣顯斌 陳玲珍 張鈞維 | 製片組 鍾曉修 陳昱瑤 柯輝 | 撮影 王盈舜 黃思嘉 蕭菊貞 | 監製 鄭泰然 李俊志 林家煌

録音 鄧鎮策 小嶋修司 陳博文 | 剪接 陳昱瑤 蕭菊貞 | 混音 杜篤之 吳修銘 聲色盒子有限公司 | 配樂 林強 | 數位後期製作 時間軸影像製作有限公司 | 視效動畫 洪流藝術研究所 | 片名題字 董陽孜

全球發行 CNEX 視納華仁 | 台灣院線發行 嘉聯子股份有限公司 | 製作 cnex 上善醫文化工作室 | 出品 鴻梅文化藝術基金會 財團法人蔣見美教授文教基金會 上善醫文化工作室

贊助 文化部影視及流行音樂產業局 漢民 財團法人潘文海文教基金會 財團法人天主教教堂基金會 ADATA 威剛科技 TREND 趨勢科技 FocalTech 敦泰電子

MEDIATEK 聯發科技教育基金會 台灣光華慈善基金會 ADVANTAGE 研華文教基金會 YTEC 元元電子 台灣交通大學校友總會 國立清華大學

個人贊助 劉英達 方略 陳立白 蔡進步 蔡能賢 成群傑 徐清祥

【主催】台湾ドキュメンタリー「造山者」上映実行委員会 【共催】群馬県台湾総会・NPO法人たかさきコミュニティシネマ 【事務局】株式会社空間あい

【後援】群馬県、前橋市、高崎市、台灣駐日本代表處、(一財)台湾協会、上毛新聞社、群馬テレビ、FM GUNMA、ラジオ高崎

造山者

『チップ・オデッセイ 台湾の賭け』上映会

プログラム

特別講演 13:30-14:15
楊 馬田(ヤン・マテン/Ma-Tien Yang)
「台湾半導体産業の歩み」

休憩 15分

「造山者」上映 14:30-16:30



監督プロフィール

蕭菊貞 (シャオ・ジュイジェン/Hsiao Chu-Chen)

「造山者一世紀の賭け」は台湾の半導体産業の半世紀の歩みを記録したドキュメンタリー映画で、2025年6月に台湾で公開され、興行 収入3,200万台湾元(約1億5,000万円以上)を突破し、ドキュメンタリー映画として台湾国内で歴代トップ5入りを果たす大ヒットを記録した注目作です。監督のシャオ・ジュイジェン(蕭菊貞)は、『紅葉野球チーム(紅葉傳奇)』『祖母のかんざし(銀簪子)』で2年連続して台湾アカデミー賞(金馬奨)最優秀ドキュメンタリー賞に輝き、アムステルダム・ドキュメンタリー国際映画祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭など、国内外の主要ドキュメンタリー映画祭に数多くノミネートされている、台湾を代表するドキュメンタリー映画監督です。

特別講演13:30-14:15 テーマ:「台湾半導体産業の歩み」

講演者プロフィール

ITRI 日本事務所所長 楊馬田(ヤン・マテン/Ma-Tien Yang)様

楊博士は日本の千葉大学で建築工学修士課程を修了後、米国のニューヨーク州立大学バッファロー校で計算力学の博士号を取得。ITRI機械研究所、国際センター、産業科学技術国際戦略発展所などで要職を歴任、2022年日本事務所に着任。研究開発のみならず、産学官連携、国際協力、技術移転など幅広い分野で活躍。産業変革、サプライチェーン変化、スタートアップ市場に精通。半導体、電気自動車、グリーンエネルギー、ヘルスケアなどの重点分野で、日本企業と台湾企業の技術協力、共同研究、ビジネスマッチングの促進に尽力しています。



2026年7月28日に発生した令和8年熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地では、今なお多くの方々が困難な状況に置かれています。熊本に生産拠点を構える半導体大手の台湾積体電路製造(TSMC)が2億5,000万円の寄付を表明するなど、支援の輪が広がっています。本上映会でも、被災された皆様の生活再建を支えるため、義援金へのご協力をお願い申し上げます。お寄せいただいた義援金は、熊本県などの公的な受付窓口を通じてお届けいたします。本趣旨にご賛同いただき、温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。
上映実行委員会一同

いつだって歴史を作るのはひとなのだ

高崎映画祭プロデューサー
NPO法人たかさきコミュニティシネマ代表理事
志尾睦子

国の未来を託される人間の心境とはいかなるものなのか。

数十年前の思い出を語る人物が、急に込み上げてくる感情によって涙で声を詰まらせる。その姿に、不意に目頭が熱くなった。当時の風が一気に吹き込んでくるのを感じた。
私を含め大半の人間が、その問いかけすら浮かばないような人生を送っているはずだ。命題が大きすぎる。会社の命運をかけた事業を手がけた人たちの物語や、ある分野においてのバイオニア奮闘記、一流と呼ばれるプロフェッショナル達の仕事、などに着目したドキュメンタリーは数々見てきたが、「国の未来を託される若者たちの軌跡」というハリウッド級の大スペクタルドラマを、こんなにも温かなドキュメンタリーとして観られたことに、驚いた。上映者として、この映画を誰に届けたいかと考えた時、まちづくりや、ものづくりに関わる人たち、そして未来に夢を馳せる若者たちが浮かんだ。

『造山者』は、海に囲まれた小さな島国の台湾が、いかにして半導体産業で世界を牽引する存在になったのか、を描いたものだと思っていた。無論、モチーフは半導体であり、その産業が国を強くしていったという点においてはその通りなのだが、その本質は、祖国を愛し、誇りを持って生きる人たちの人生とアイデンティティの物語にあった。そこに深い感銘を受けた。

すでに台湾ドキュメンタリー界でその実力を証明していたシャオ・ジュイジェン監督は2017年、台湾半導体産業の歴史についての映画をとってほしいと依頼された。しかしその時彼女はそれを断っている。テクノロジーは冷たすぎると感じ、そのテーマが自分から遠い話だと思ったからだというが、それでもこうして映画ができたのは、この台湾の歴史に関わってきた人物たちに出会い、彼らの人となりに触れたからにほかならない。シャオ・ジュイジェン監督は事物を撮るのではなく、人とその生活を撮る人なのだった。

2019年から撮影を開始し、約5年間をかけ80人もの関係者に会い、台湾の歴史とこれからをみつめる物語として本作を形作った。撮影開始直後にコロナ禍にみまわれたこともあり、マスク越しの人々のくいま>が台湾の軌跡を浮かび上がらせ、未来に繋がっていく。ドキュメンタリー構想の当初には想像もつかなかった未来が、カメラを回し続ける中で記録されてきたことになる。半導体産業がもたらした国の発展史が現在進行形で生き生きと見えてくるのだ。

映画の冒頭から、彼女はドキュメンタリー作家としての意志を明確に見せている。
台湾の未来を憂い、希望をもつために高官たちが集まり会合した場所を辿るのだ。区画整理され住所が当時と変わっている中で、<その場所>を突き止めるのである。「想像力に頼るだけでは歴史に立ち向かうことはできない」という姿勢が、全編に渡って伝わってくる。誰がどこで何をしたのか。その空気を追体験しなければ、見えてこないことがあり、語れないことがある。

本作は2025年夏に台湾で劇場公開され、ドキュメンタリー映画としても大ヒットを記録した。自分たちの国の話を喜びと驚きを持って鑑賞する姿を想像する。とても素敵なことだ。

きっとこれから世界セールスがはじまるだろう。その前に、日本の台湾関係者の皆さんから自主上映が広まり私たちもこの映画に出会った。自国の誇りと愛が自主上映という形で広がることにまた敬意を表したい。

そして。この映画に出会った人たちが、この物語を自分ごととして胸に刻む姿を想像する。その想いを是非言葉にして、近くの人たちに、SNSに、広げていっていただけたらと願う。そうした声が、日本の劇場公開に繋がったら、こんなに嬉しいことはない。

ドキュメンタリー映画 「チップ・オデッセイ 台湾の賭け」について

大東文化大学教授 野嶋 剛

『チップ・オデッセイ 台湾の賭け』は、台湾の半導体産業の誕生と発展の歴史を掘り起こした画期的な作品であり、台湾における「プロジェクトX」と呼んでもいい作品かもしれません。国土も人口も日本の6分の1ほどしかない台湾に、どうして、トヨタに匹敵する世界的企業TSMCが生まれたのか。「経済のコメ」と言われる半導体で台湾企業が世界を圧倒しているのはどんな背景があるのか。日本の半導体産業復活のため台湾から何を学べるのか。そんな我々日本人の関心事に対して、多くのヒントを与えてくれる内容であり、産業政策の統合的立案や国家レベルの支援の重要性、エンジニア人材の育成の重要性を理解させてくれます。

原題「造山者」は、「護国神山」と呼ばれる台湾の半導体産業を作り上げた政治家、官僚、エンジニア、企業人たちを意味します。台湾の半導体産業は突然現れたわけではなく、1970年代以来の彼らの奮闘があり、台湾は「賭け」に勝利し、世界を制する半導体産業を手に入れました。その経緯について当事者80人ものインタビューと5年の歳月をかけて、ベテランドキュメンタリー監督・蕭菊貞が本作をさせました。台湾を守るために立ち上がった人々の献身的な努力に対して、映画を見る台湾の人々は涙しました。本作は2025年に台湾で公開されてドキュメンタリーとしては異例のヒットとなり、台湾の外交部(外務省)は在外公館に対して各国で本作を上映するように指示しました。TSMC工場が熊本に進出し、半導体産業の復活を期待する声も高まる日本において、本作によって台湾の半導体作業に対する理解を深め、今後の日台半導体協力や日台関係に資することを願うもので、4月には東京、名古屋、熊本で上映会を実施しました。

主要作品登場人物

元RCA(アメリカ・ラジオ会社)派遣メンバー

史欽泰・元工業技術研究院(ITRI)院長
曾繁城・TSMC元副会長
胡定華・旺宏電子元董事長
曹興誠 UMC元会長

台湾政府関係者

潘文淵 (1970年代前半に集積回路計画案を策定した台湾半導体の父)
孫運璿 元経済部長(1970年代前半に集積回路計画を推進した台湾テクノロジーの父)
李國鼎 元経済部長(1980年代にTSMC誕生に尽力した重要人物)
蔣經國 元総統、蔡英文前総統、賴清徳現総統

半導体企業関係者、その他

モリス・チャン (TSMC創業者)
魏哲家 (TSMC会長)
劉德音 (TSMC元社長)
ジェイソン・ホワン (エヌビディア創業者)
クリス・ミラー 『半導体戦争』著者
林宏文 『TSMC世界を動かすヒミツ』著者

主要年表

1971 台湾(中華民国)が国連から脱退、翌年日本とも断交
1973 工業技術研究院(ITRI)が発足
1975 台湾政府が集積回路推進計画を策定、蒋介石死去
1976 RCAに技術者を派遣
1980 新竹テクノロジーパーク完成
1985 米国からモリス・チャンを招聘
1987 TSMCが誕生。蔣経国死去、李登輝が代理総統に就任
1996 台湾初の総統直接選挙実施
2000 台湾初の政権交代、パーソナルコンピューターが普及
2007 アップルがiPhone発売によるスマホ普及による半導体需要が拡大
2009 モリス・チャンがTSMC経営に復帰(2018年に引退)
2024 TSMC熊本工場が稼働開始

作品中の重要発言

「当時の人々が感じた使命感は、アイデンティティや危機感からくるものだと思います。1970年代のあの時期、呼び名が台湾であろうが中華民国であろうがあるいは 中国であろうが、課題は明確でした。いかに産業を継続的に発展させ、生き残る方法を見つけれられるかでした」(劉清耿・輔仁大學清華大学教授)

「当時の人々の革命感情を目撃し、業界の人々の隠された内心を知るに至り、この歴史を記録として残さなければ台湾の損失になると考えた」(蕭監督)

「(当時、台湾を視察したモリス・チャンは報告書を台湾政府に提出したが、その報告書は)まったく重要ではなかった。なぜなら、李国鼎先生の本当の目的は、私を台湾に呼び込むことだったからです」「かれがいなければ1985年からTSMCの設立まで、実現はできなかったでしょ」(モリス・チャン、TSMC創業者)

「1990年代に台湾が行っていたOEMは多くの人は見下していたと思う。OEMに長年染みついた負の考えに、台湾では、OEMが持つ無限の可能性が制約されなかったことです」(陳東升・台湾大学社会学部教授)

「2010年から2015年のTSMCはモリス・チャンが蓄えた資金を一気に研究開発に投資した。毎年20億米ドルを研究開発に使い、開発チームは短期間で700人から3000人に増加した」「私たちは3交代制で、日勤、準夜勤、夜勤で、ウエハは24時間稼働していますが、あなた方は8時間だけ。だからスピードは3倍です。あなた方が2倍我々より賢くても勝てるのです」(蔡能賢TSMC元副社長)



野嶋 剛／ジャーナリスト、作家、大東文化大学社会学部教授。1968年生まれ。上智大学新聞学科卒。朝日新聞入社後、政治部、台北支局長、国際編集部次長、AERA編集部などを経て、2016年4月に独立。台湾問題、中台関係などについてメディアでの執筆、テレビ出演、講演などを活発に行っている。著書に『ふたつの故宮博物院』『台湾とは何か』『香港とは何か』『蒋介石を救った帝国軍人』『新中国論』『台湾の本音』など。最新刊は『白球は海を渡る 台湾の中の日本野球』など。

TAIYO YUDEN

電子部品なら 太陽誘電

太陽誘電の積層セラミックコンデンサ(セラコン)は、
スマートフォンや自動車に数多く使われ、
私たちの生活を小さな姿で大きく支えています。

ちっっさ!!

Shin-Etsu

信越化学工業株式会社

Shin-Etsu Chemical Co.,Ltd.

セラコンって、 何?

祈りの空間
PreeSe フリエッセ

□空調・衛生・工業用各種配管工事
株式会社エムワイ工業



TAKASAKI
INTERNATIONAL
MUSIC ASSOCIATION

高崎国際音楽協会

楽器のことならお任せください。

音と技術の専門店
ピアソプラザ 群馬
WEB
QR
富岡本店 富岡市問屋町西1丁目3-10 TEL:027-363-1262 10:00-19:00
いせざき店 伊勢崎市宮子町3635-16 TEL:0270-40-6311 10:00-18:00
(休館日あり)

— あなたの場所へ、映画をお届けします —

特定非営利活動法人
たかさきコミュニティシネマ



GUNMA-TAIWAN ASSOCIATION
SINCE 1945
GTA

群馬県台湾総会

群馬で出会う台湾
台湾で感じる群馬



蕭菊貞 作品

A Film by HSIAO CHU-CHEN

ドキュメンタリー映画 A Chip Odyssey

『チップ・オデッセイ 台湾の賭け』

2025年/台湾/1時間46分/監督:シャオ・ジュイジェン (Hsiao Chu-Chen)

2026年9月23日(水・祝) 13:30開演 自由席

講演会+映画上映会 13:30 講演会 14:30映画上映

高崎芸術劇場スタジオシアター

—— 小さな島・台湾が、なぜ世界の未来を握ったのか ——
台湾半導体産業 未来を信じ続けた人々の挑戦

造山者

世紀的賭注

A CHIP ODYSSEY

導演 蕭菊貞 | 製片人 陳添順 蔣顯斌 | 總顧問 史欽泰 | 研究顧問 王仕琦 | 企劃暨研究員 劉順 | CNEX製片管理 蔣顯斌 陳玲珍 張劉維 | 製片組 鍾儀修 陳昱璵 柯舞 | 攝影 王盈舜 黃思嘉 蕭菊貞 | 空拍攝影 鄭泰然 李俊志 林家煒
錄音 羅頌策 | 剪接指導 陳博文 | 剪接 陳昱璵 蕭菊貞 | 混音 杜篤之 吳樟鈺 聲色盒子有限公司 | 配樂 林強 | 數位後期製作 時間軸影像製作有限公司 | 視覺動畫 洪流藝研所 | 片名題字 董陽孜
全球發行 CNEX 視納華仁 | 台灣院線發行 光華 | 產製子股份有限公司 | 製作 cnex 上善醫文化工作室 | 出品 鴻梅文化藝術基金會 財團法人蔣見美教授文教基金會 上善醫文化工作室

贊助



文化部影視及流行音樂產業局
MINISTRY OF CULTURE
Bureau of Audiovisual and Mass Industry Development, MOI



漢民
HANNIEN FOUNDATION



財團法人潘文淵文教基金會
Pan Wen Yuan Foundation



耶穌基督後裔教會
Church of Jesus Christ of Latter-day Saints



ADATA
威剛科技



TREND
趨勢科技



FocalTech
敦泰電子



MEDIATEK
聯發科技教育基金會



台灣半導體慈善基金會



研華文教基金會
Advantech Foundation



YTEC
久元電子



台灣交通大學校友總會
NCTU Alumni Association



國立清華大學
NATIONAL TSING HUA UNIVERSITY

個人贊助 劉英達 方略 陳立白 蔡進步 蔡能賢 成群保 徐清祥

【主催】台湾ドキュメンタリー「造山者」上映実行委員会 【共催】群馬県台湾総会・NPO法人たかさきコミュニティシネマ 【事務局】株式会社空間あい

【後援】群馬県、前橋市、高崎市、台湾駐日本代表處、(一財)台湾協会、上毛新聞社、群馬テレビ、FM GUNMA、ラジオ高崎

造山者

『チップ・オデッセイ 台湾の賭け』上映会

プログラム

特別講演 13:30-14:15
楊 馬田(ヤン・マテン/Ma-Tien Yang)
「台湾半導体産業の歩み」

休憩 15分

「造山者」上映 14:30-16:30



監督プロフィール

蕭菊貞 (シャオ・ジュイジェン/Hsiao Chu-Chen)

「造山者一世紀の賭け」は台湾の半導体産業の半世紀の歩みを記録したドキュメンタリー映画で、2025年6月に台湾で公開され、興行 収入3,200万台湾元(約1億5,000万円以上)を突破し、ドキュメンタリー映画として台湾国内で歴代トップ5入りを果たす大ヒットを記録した注目作です。監督のシャオ・ジュイジェン(蕭菊貞)は、『紅葉野球チーム(紅葉傳奇)』『祖母のかんざし(銀簪子)』で2年連続して台湾アカデミー賞(金馬奨)最優秀ドキュメンタリー賞に輝き、アムステルダム・ドキュメンタリー国際映画祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭など、国内外の主要ドキュメンタリー映画祭に数多くノミネートされている、台湾を代表するドキュメンタリー映画監督です。

特別講演13:30-14:15 テーマ:「台湾半導体産業の歩み」

講演者プロフィール

ITRI 日本事務所所長 楊馬田(ヤン・マテン/Ma-Tien Yang)様

楊博士は日本の千葉大学で建築工学修士課程を修了後、米国のニューヨーク州立大学バッファロー校で計算力学の博士号を取得。ITRI機械研究所、国際センター、産業科学技術国際戦略発展所などで要職を歴任、2022年日本事務所に着任。研究開発のみならず、産学官連携、国際協力、技術移転など幅広い分野で活躍。産業変革、サプライチェーン変化、スタートアップ市場に精通。半導体、電気自動車、グリーンエネルギー、ヘルスケアなどの重点分野で、日本企業と台湾企業の技術協力、共同研究、ビジネスマッチングの促進に尽力しています。



2026年7月28日に発生した令和8年熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地では、今なお多くの方々が困難な状況に置かれています。熊本に生産拠点を構える半導体大手の台湾積体電路製造(TSMC)が2億5,000万円の寄付を表明するなど、支援の輪が広がっています。本上映会でも、被災された皆様の生活再建を支えるため、義援金へのご協力をお願い申し上げます。お寄せいただいた義援金は、熊本県などの公的な受付窓口を通じてお届けいたします。本趣旨にご賛同いただき、温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

上映実行委員会一同

いつだって歴史を作るのは ひと なのだ

高崎映画祭プロデューサー
NPO法人たかさきコミュニティシネマ代表理事
志尾睦子

国の未来を託される人間の心境とはいかなるものなのか。

数十年前の思い出を語る人物が、急に込み上げてくる感情によって涙で声を詰まらせる。その姿に、不意に目頭が熱くなった。当時の風が一気に吹き込んでくるのを感じた。

私を含め大半の人間が、その問いかけすら浮かばないような人生を送っているはずだ。命題が大きすぎる。会社の命運をかけた事業を手がけた人たちの物語や、ある分野におけるパイオニア奮闘記、一流と呼ばれるプロフェッショナル達の仕事、などに着目したドキュメンタリーは数々見てきたが、「国の未来を託される若者たちの軌跡」というハリウッド級の大スペクタルドラマを、こんなにも温かなドキュメンタリーとして観られたことに、驚いた。上映者として、この映画を誰に届けたいかと考えた時、まちづくりや、ものづくりに関わる人たち、そして未来に夢を馳せる若者たちが浮かんだ。

『造山者』は、海に囲まれた小さな島国の台湾が、いかにして半導体産業で世界を牽引する存在になったのか、を描いたものだと思っていた。無論、モチーフは半導体であり、その産業が国を強くしていったという点においてはその通りなのだが、その本質は、祖国を愛し、誇りを持って生きる人たちの人生とアイデンティティの物語にあった。そこに深い感銘を受けた。

すでに台湾ドキュメンタリー界でその実力を証明していたシャオ・ジュイジェン監督は2017年、台湾半導体産業の歴史についての映画をとってほしいと依頼された。しかしその時彼女はそれを断っている。テクノロジーは冷たすぎると感じ、そのテーマが自分から遠い話だと思ったからだというのが、それでもこうして映画ができたのは、この台湾の歴史に関わってきた人物たちに出会い、彼らの人となりに触れたからにほかならない。シャオ・ジュイジェン監督は事物を撮るのではなく、人とその生活を撮る人なのだった。

2019年から撮影を開始し、約5年間をかけ80人もの関係者に会い、台湾の歴史とこれからをみつめる物語として本作を形作った。撮影開始直後にコロナ禍にみまわれたこともあり、マスク越しの人々のくいまが台湾の軌跡を浮かび上がらせ、未来に繋がっていく。ドキュメンタリー構想の当初には想像もつかなかった未来が、カメラを回し続ける中で記録されてきたことになる。半導体産業がもたらした国の発展史が現在進行形で生き生きと見えてくるのだ。

映画の冒頭から、彼女はドキュメンタリー作家としての意志を明確に見せている。

台湾の未来を憂い、希望をもつために高官たちが集まり会合した場所を辿るのだ。区画整理され住所が当時と変わっている中で、<その場所>を突き止めるのである。「想像力に頼るだけでは歴史に立ち向かうことはできない」という姿勢が、全編に渡って伝わってくる。誰がどこで何をしたのか。その空気を追体験しなければ、見えてこないことがあり、語れないことがある。

本作は2025年夏に台湾で劇場公開され、ドキュメンタリー映画としても大ヒットを記録した。自分たちの国の話を喜びと驚きを持って鑑賞する姿を想像する。とても素敵なことだ。

きっとこれから世界セールスがはじまるだろう。その前に、日本の台湾関係者の皆さんから自主上映が広まり私たちもこの映画に出会った。自国の誇りと愛が自主上映という形で広がることにまた敬意を表したい。

そして。この映画に出会った人たちが、この物語を自分ごととして胸に刻む姿を想像する。その想いを是非言葉にして、近くの人たちに、SNSに、広げていっていただけたらと願う。そうした声が、日本の劇場公開に繋がったら、こんなに嬉しいことはない。

ドキュメンタリー映画 「チップ・オデッセイ 台湾の賭け」について

大東文化大学教授 野嶋 剛

『チップ・オデッセイ 台湾の賭け』は、台湾の半導体産業の誕生と発展の歴史を掘り起こした画期的な作品であり、台湾における「プロジェクトX」と呼んでもいい作品かもしれません。国土も人口も日本の6分の1ほどしかない台湾に、どうして、トヨタに匹敵する世界的企業TSMCが生まれたのか。「経済のコメ」と言われる半導体で台湾企業が世界を圧倒しているのはどんな背景があるのか。日本の半導体産業復活のため台湾から何を学べるのか。そんな我々日本人の関心事に対して、多くのヒントを与えてくれる内容であり、産業政策の統合的立案や国家レベルの支援の重要性、エンジニア人材の育成の重要性を理解させてくれます。

原題「造山者」は、「護国神山」と呼ばれる台湾の半導体産業を作り上げた政治家、官僚、エンジニア、企業人たちを意味します。台湾の半導体産業は突然現れたわけではなく、1970年代以来の彼らの奮闘があり、台湾は「賭け」に勝利し、世界を制する半導体産業を手に入れました。その経緯について当事者80人ものインタビューと5年の歳月をかけて、ベテランドキュメンタリー監督・蕭菊貞が本作をさせました。台湾を守るために立ち上がった人々の献身的な努力に対して、映画を見る台湾の人々は涙しました。本作は2025年に台湾で公開されてドキュメンタリーとしては異例のヒットとなり、台湾の外交部（外務省）は在外公館に対して各国で本作を上映するように指示しました。TSMC工場が熊本に進出し、半導体産業の復活を期待する声も高まる日本において、本作によって台湾の半導体作業に対する理解を深め、今後の日台半導体協力や日台関係に資することを願うもので、4月には東京、名古屋、熊本で上映会を実施しました。

主要作品登場人物

元RCA（アメリカ・ラジオ会社）派遣メンバー

史欽泰・元工業技術研究院(ITRI)院長
曾繁城・TSMC元副会長
胡定華・旺宏電子元董事長
曹興誠 UMC元会長

台湾政府関係者

潘文淵（1970年代前半に集積回路計画案を策定した台湾半導体の父）
孫運璿 元経済部長（1970年代前半に集積回路計画を推進した台湾テクノロジーの父）
李國鼎 元経済部長（1980年代にTSMC誕生に尽力した重要人物）
蔣經國 元総統、蔡英文前総統、頼清徳現総統

半導体企業関係者、その他

モリス・チャン（TSMC創業者）
魏哲家（TSMC会長）
劉德音（TSMC元社長）
ジェイソン・ホワン（エヌビディア創業者）
クリス・ミラー 『半導体戦争』著者
林宏文 『TSMC世界を動かすヒミツ』著者

主要年表

1971 台湾(中華民国)が国連から脱退、翌年日本とも断交
1973 工業技術研究院(ITRI)が発足
1975 台湾政府が集積回路推進計画を策定、蒋介石死去
1976 RCAに技術者を派遣
1980 新竹テクノロジーパーク完成
1985 米国からモリス・チャンを招聘
1987 TSMCが誕生。蔣経国死去、李登輝が代理総統に就任
1996 台湾初の総統直接選挙実施
2000 台湾初の政権交代、パーソナルコンピューターが普及
2007 アップルがiPhone発売によるスマホ普及による半導体需要が拡大
2009 モリス・チャンがTSMC経営に復帰(2018年に引退)
2024 TSMC熊本工場が稼働開始

作品中の重要発言

「当時の人々が感じた使命感は、アイデンティティや危機感からくるものだと思います。1970年代のあの時期、呼び名が台湾であろうが中華民国であろうがあるいは中国であろうが、課題は明確でした。いかに産業を継続的に発展させ、生き残る方法を見つけられるかでした」(劉清耿・輔仁大學清華大学教授)

「当時の人々の革命感情を目撃し、業界の人々の隠された内心を知るに至り、この歴史を記録として残さなければ台湾の損失になると考えた」(蕭監督)

「(当時、台湾を視察したモリス・チャンは報告書を台湾政府に提出したが、その報告書は)まったく重要ではなかった。なぜなら、李国鼎先生の本当の目的は、私を台湾に呼び込むことだったからです」「かれがいなければ1985年からTSMCの設立まで、実現はできなかったでしょ」(モリス・チャン、TSMC創業者)

「1990年代に台湾が行っていたOEMは多くの人は見下していたと思う。OEMに長年染みついた負の考えに、台湾では、OEMが持つ無限の可能性が制約されなかったことです」(陳東升・台湾大学社会学部教授)

「2010年から2015年のTSMCはモリス・チャンが蓄えた資金を一気に研究開発に投資した。毎年20億米ドルを研究開発に使い、開発チームは短期間で700人から3000人に増加した」「私たちは3交代制で、日勤、準夜勤、夜勤で、ウエハは24時間稼働していますが、あなた方は8時間だけ。だからスピードは3倍です。あなた方が2倍我々より賢くても勝てるのです」(蔡能賢TSMC元副社長)



野嶋 剛/ジャーナリスト、作家、大東文化大学社会学部教授。1968年生まれ。上智大学新聞学科卒。朝日新聞入社後、政治部、台北支局長、国際編集部次長、AERA編集部などを経て、2016年4月に独立。台湾問題、中台関係などについてメディアでの執筆、テレビ出演、講演などを活発に行っている。著書に『ふたつの故宮博物院』『台湾とは何か』『香港とは何か』『蒋介石を救った帝国軍人』『新中国論』『台湾の本音』など。最新刊は『白球は海を渡る 台湾の中の日本野球』など。

TAIYO YUDEN

電子部品なら 太陽誘電

太陽誘電の積層セラミックコンデンサ(セラコン)は、
スマートフォンや自動車に数多く使われ、
私たちの生活を小さな姿で大きく支えています。



ちっさ!!

セラコンって、
何?





信越化学工業株式会社

Shin-Etsu Chemical Co.,Ltd.



祈りの空間

プリエッセ



□空調・衛生・工業用各種配管工事
株式会社エムワイ工業



TAKASAKI
INTERNATIONAL
MUSIC ASSOCIATION

高崎国際音楽協会

楽器のことならお任せください。



音と技術の専門店
ピアソアラザ



高崎本店 高崎市岡屋町西1丁目3-10
いせざき店 伊勢崎市宮子町3635-16

TEL:027-363-1262
TEL:0270-40-6311

10:00-19:00
10:00-18:00

(水曜定休)

— あなたの場所へ、映画をお届けします —

特定非営利活動法人
たかさきコミュニティシネマ



群馬県台湾総会

群馬で出会う台湾
台湾で感じる群馬



歴史に刻まれた群馬と台湾の絆

台湾と群馬の懸け橋となった歴史的な人物が台湾と台湾は、歴史的に深い結びつきを持っています。明治から昭和にかけて、群馬出身の多くの先人たちが台湾の発展に貢献し、また台湾から群馬へと渡った人々も重要な役割を果たしてきました。



TSMC

台湾のシリコンバレー。
新竹が本拠地、最先端半導体の9割製造し、企業価値は 世界No.5。



中島長吉

松井田町出身、教育者、六氏先生の一人、台北で遭難殉職。



石坂荘作

東吾妻町出身、基隆に図書館、夜間学校を建て、基隆聖人と呼ばれる。



新井耕吉郎

沼田市園原出身、台湾で紅茶栽培推進、台湾紅茶の父と呼ばれる。



金子昌太郎

前橋出身、砂糖キビの品種改良、台湾製糖業に貢献。



羽鳥又男

前橋富士見村出身、日本統治時代台南最後の市長、史跡保護に貢献。



羽鳥重郎

前橋富士見村出身医師、風土病撲滅に貢献、晩年は花蓮で地域医療に従事。



周再賜

屏東出身キリスト教教育者、同志社大学助教授の後前橋共愛学園で40年間校長を務める。



【創業地：花蓮】 おかげさまで創業110余年



Green engineering

株式会社 しみづ農園

台湾マップ制作：飯塚裕子
提供：群馬県台湾総会

(一財)台湾協会 (一社)台湾世界遺産登録応援会 東京台湾の会 東台湾同郷会

群馬県台湾総会
ホームページ

